

京林大だより

No.55



絵：卒業生 熊走君

第10期生16名が入学しました

令和3年4月6日、林業大学校森林林業科の入学式を挙行し、第10期生16名が林大生活のスタートを切りました。コロナ禍のため、新入生と在校生、保護者のみの参加とし、只木名誉校長による式辞、新入生代表による宣誓の言葉が述べられました。

名誉校長からは「地域に即し創意工夫に満ちた事業や活動に向かって不可欠の人材育成に、創設10年目の京都林業大学校が大いに貢献したい。」「単なる林業技術だけではなく、学理理論を背景に持つ技術を持ってほしい。」とエールが送られました。

新入生代表は「恵まれた素晴らしい環境の中で多くのことを吸収し、それぞれの目標に向け成長していきたいと思います。」と宣誓しました。

入学生の出身地別の内訳は京都府内7名、府外9名（神奈川、岐阜、大阪、兵庫、和歌山、愛媛、熊本）になります。

これから二年間、地域の方々や林業関係者の方々には、いろいろとお世話になりますが、どうかよろしくお願いいたします。



満開のサクラの前で記念撮影



新入生代表宣誓

恒例の日本海ウォーキングを開催

毎年入学後すぐに実施している日本海ウォーキング（大江山から天橋立）を4月22日、23日の両日に行いました。

両日とも好天に恵まれ、延べ50キロメートルのコースを1・2年生の混合チームで無事縦走することができました。昨年に引き続いて、宿泊での開催はなくなりましたが、林大生の連携感が強まった2日間となりました。



天橋立にて

森校長着任挨拶

4月1日に、京都府立林業大学校第2代校長を拝命しました、森 敦司と申します。本校が、ますます府内の森林・林業関係及び地域の皆様の期待に応えられるよう頑張っております。

本校は2012年（平成24年）4月9日に西日本で唯一の林業大学校として開校し、来年4月には10周年を迎えるところでございます。この間、卒業生も135名を数え、府内の森林・林業関係の事業体でも多くの者が活躍してくれているところでございます。

本校では今後も、「自然を尊敬できる人を育てたい」を教育理念に掲げ、森林・林業の第一線で活躍できる人材、地域活動を支える公共人材、及び林業事業体の経営力の向上を支える人材を育ててまいりますので、本校の教育活動に御協力と御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



森 新校長

今月の授業参観

『林業機械実務Ⅰ』

1年生はまず、この講義でチェーンソー及び刈払機の構造や点検整備、それぞれの機械の安全な操作や作業方法について4日間をかけて学びました。

入学直後に購入した防護衣やヘルメットを身につけ、チェーンソーを持ち戸惑いながら木を切る学生の姿は初々しいものです。

その初々しい学生達も、徐々に機械になれ2年生になると安全知識を身につけ、当初と比べてスムーズに、そして安全に伐木を行うことができるようになります。今後、1年生の成長していく姿を見るのが楽しみです。



講師の指導を受け「受け口」を作る10期生



名誉校長室より

この度、名誉校長に

名誉校長 只木良也

私、京都林業大学校創設10年目が始まるこの年度替りに、校長任期満了し、「名誉校長」の称号を与えられました。担当の森林生態学系教科の講義は、今しばらくは継続の見込みです。

後任の校長は、今までの森副校長が。タダ「木」が生えている状態から「遷移」は進んで、「森」へと生態系は充実・完成に向かって進むのが自然界。京林大も充実進行と、嬉しい意味に洒落ておきましょう。

林大創設して10年、京林大の充実は、地元のご協力に支えられてきました。校長退任にあたり、御礼の言葉を、と思います。

2012年4月の京林大創立に先行して、校長に内定し、1月末、雪降りの日に現地下見に訪れた私の目にしたのは、町のあちこちに立てられていた「祝 京都林業大学校」の幟旗でした。京丹波町役場近くの国道沿いには横断幕も。「地元は歓迎してくれている」忘れえぬ感激の嬉しい光景でした。創設後間もなく、地域の様々な団体集って林大を応援してくれる「地域連絡協議会」発足。近隣の方々の御尽力で、入学式・卒業式の餅つき・炊き出し、その他、下宿の便宜、昼食の安価提供…、京林大、どれだけ地元の御好意に甘えてきたことか。以上のこと、既に何度も述べてきたのですが今一度。その御尽力なかりせば、京林大の成功もなく、京都を真似た、全国的「林大林立」に至らなかったのでは、とも思うのです。

日本を代表する里山地域、丹波に京林大（→本誌52号、2020年11月）、その意義と共に、それを活かす地元の御尽力への感謝、校長退任にあたっての私の御挨拶に、言葉を重ねたいと思います。

京林大と初代校長、共々お世話になりました。京林大を今後ともよろしくお願いいたします。